

# 明治～昭和の実業家 大野町出身の野村洋三



野村洋三の生き様、知られざるエピソードなどを語る孫の弘光さん。揖斐郡大野町黒野、町総合市民センター

明治から昭和にかけて横浜を拠点に活躍した揖斐郡大野町出身の実業家・野村洋三(1870～1965年)の功績について知る講演会が、同町黒野の町総合市民センターで開かれ、野村の孫らが講演した。  
(山田雄大)

古美術店設立、日本人の精神を紹介

## “日米の懸け橋” 功績を次代へ

### 孫ら講演 原三溪との交流語る

野村は同町公郷生まれ。横浜で外国人向けの古美術店「サムライ商会」を設立。東洋美術を通じて日本人の持つ感性や精神を海外に紹介し、「太平洋の懸け橋」として成功を収めた。

関東大震災では、焼失した自身の店を顧みず被災した横浜の復興に大きく寄与。その後、横浜を代表するホテルの一つ「ホテルニューグランド」の会長、横浜商工会議所会頭などを歴任した。

講演会は、住民有志でつくる「野村洋三顕彰会準備委員会」などが初めて開催。元早稲田大副総長の村上義紀

弘光さんは、野村の孫の孫の弘光さん、揖斐川町出身で京都産業大名誉教授の所功さんの3人が講演し、約300人が参加した。

弘光さんは、野村の人柄、同じ実業家として親交の深かった岐阜市柳津町出身の原三溪とのエピソードを当時の写真とともに紹介。また、20代で出会った

新渡戸稲造から武士道の理念に大きな影響を精神を教わったことに与える出会いだっただけに「サムライ商会 違いない」と語った。